

2011・9・24

保育感情労働研究会通信 第1号

NPO法人さやま保育サポートの会

保育サポート研究所 04-2957-0451

明星大学で続けてきた感情労働研究会（代表：諏訪）を諏訪の定年退職に伴い、NPO法人さやまサポートの会（代表理事：諏訪）保育サポート研究所に移行し、会員制として再発足することが5月21日（土）日本保育学会と重ねて開催した第8回研究会で決まりました。その場で会員登録手続きをされたのは25名、会員数は9月20日現在で32名になっています。研究会の回数は通して数えることにしています。

会員をつなぐものとして、研究会の母体となった明星大学通信制大学院に因んで、「保育感情労働研究会通信」と名づけ、会誌を発行することにしました。配布は基本的にはメーリングリストに添付する形にしますが、研究会の席上ではプリントにして手渡しいたします。研究会名は、発足以来「感情労働研究会」で通してきましたが、再発足以来「保育の」あるいは「保育」という名称が付せられるようになって来ました。これは諏訪退官を記念して出版された『保育における感情労働』に因んでのことかと思われます。当面は「保育感情労働研究会」という名称を用いることとし、この「通信」誌上で活発な議論が展開されることを期待しています。

研究紹介：生体生理指標による保育業務におけるストレスの客観的評価

2010年度明星大学特定研究費（野澤昭雄・諏訪きぬ）による研究です。270万円の研究助成を受け、生体的に保育者のストレス測定を行うため、器具機材を整え、明星大学理工学部の野澤さんが、院生などを動員して、0歳児～5歳児クラスの担任全てのストレスの蓄積を測定する（3園）という大掛かりな調査を行いました。保育者の「疲れた」という主観ストレスとは別に、**生体情報（心電図・唾液中の免疫・ホルモン等）から客観ストレスを測るという画期的な研究**です。実験方法はこれら**生理指標**（心電図：自律神経系指標・短期ストレス、唾液：内分泌系指標・長期ストレス）に加えて、VTRによる**行動指標**（俯瞰動画イベント記録：客観的行動指標、運動量（3軸加速度）：動態指標）、**心理指標**（心理アンケート：主観的心理指標）を取るという総合的なものでした。

これら調査から何が見えてきたか。第9回研究会（7月16日）で野澤さんに報告してもらいました。データ分析は、俯瞰動画から切り取ったおむつ交換・食事補助・着替え補助・寝かしつけ・用便補助などに分類したイベント毎に心電図・移動量・体表面温度のデータを対置しています。それらをクラス別に見ると面白い結果が出ています。0歳児クラスではおむつ交換や食事補助回数が多かったのに反して、1歳児クラスではそれらはかなり減少し、2歳児クラスでは用便補助・着替え補助・食事補助が増加するという特徴が出ています。生理的指標からは、心電図で心拍数が速くなるのは用便補助、運動量が多いのは着替え補助と食事補助、体表面温度が高くなるのは着替え補助・寝かしつけ・おむつ交換となっています。これらを手がかりに綿密にデータを引き出していくと、**0歳・1歳・2歳児クラスに固有の大変さを明らかに出来るのではないのでしょうか？**また長期的（慢性的）ストレス評価（唾液：生化学指標）では、**保育士＞看護師＞事務員の順に高く出ており、保育士と看護師間でも有意差が認められました。**

また心理指標と生化学指標の相関性を布置した図からは、**保育士のバラツキ度が大きく、感情労働特有の問題があることが示唆されています。**（諏訪きぬ）

研究会の持ち方についての提案

2012 年 3 月 9～11 日に行われる日本発達心

理学会第 23 回大会で「保育者養成からみた感情労働」をテーマにラウンドテーブルを行います。また 5 月 4～5 日にある日本保育学会第 65 回大会では、保育者のストレスをめぐって自主シンポジウムを行います。このようなところに、研究成果をもち出していくためには、研究会の中に＜部会＞を置くのもいいのではないのでしょうか？

『保育における感情労働』がいくつかの分野に切って感情労働を追究したように、それぞれの問題関心によって、部会を構成し集まるという方式です。Ⅰ部は全体会、Ⅱ部は部会という風なもち方をしていけば、それぞれの問題関心を深めることができるでしょう。

今出されている案は、あそび部会、生活部会、保護者支援部会、保育者養成部会、キャリア形成部会などです。第 10 回研究会で活発なご意見を出しあえたと思います。保護者支援部会、保育者養成部会は事実上、動き出している感がありますね！？さらに発展していけば、保育感情労働研究会は、福祉感情労働という視点をも内包する可能性もありますね！？

いろいろな発展方向を思い描いてみるのも楽しいので

はないでしょうか？

(小川房子)



研究会に期待する

今回、初めて「保育の感情労働研究会」に参加し、野澤昭雄先生から貴重な報告を拝聴させていただきました。

ありがとうございました。研究を始めてから現在まで質問紙による主観的ストレスの計測を行ってきた私にとって、野澤昭雄先生の客観的指標による生体的ストレス計測の報告は非常に新鮮であり、深く感銘を受けました。

この日のレジュメに、“労働負担よりも充実感”と考察されているように、充実感など主観的ストレスを抑制させるポジティブな抑制要因を追っていくと面白いかと思います。

野澤昭雄先生の報告に、保育士は他職種と比べるとばらつきが大きく、主観ストレスと客観ストレスに差異が生じている可能性があるとの指摘がございました。保育士の場合、ばらつきがありますが、その数件の外れ値を除けば他職種とほぼ変わらないことが、ここで読みとれるかと思います。そのため、外れ値を丁寧に見ていくのも面白いかもしれません。また、年齢や経験年数、担当クラスなどを考慮しながら、心理指標は低いが生化学指標は高い方々（群）、心理指標は高いが生化学指標は低い方々（群）、他の職種と同じような位置にいる方々（群）に分けて、それぞれを VTR で行動を追っていくと、各群の特性が異なる可能性があるのではと思いました。

今後の研究が楽しみです。

(野澤義隆)

「心理指標」と「生化学指標」の相違がおもしろかったです。保育士におけるイベントがあるように、看護師や介護職員にもイベントがあります。直面するイベントにより計測結果が違ってくると思います。また対人サービスと関わる時間の多少によって緊張感・ストレスが違うと思います。

保育士は労働時間のほとんどを子どもと接しています。子どもの安全性に配慮しながら保育するのは、極度のストレスです。介護職員もほとんどがケアですが、子どものように動きも早く、予測不可能な行動をとる高齢者は少なく、リズムとしてはゆっくりです。しかし「見守り」という業界用語が存在するように、違ったストレスがあります。(奈良修三)